

米沢市における婚姻と出生について

- ・昭和55年から平成27年までの期間において、米沢市における合計特殊出生率は減少し続けており最新の値（平成30年）では1.34となっている。
- ・15歳から49歳までの女性の有配偶率は減少しつづけており、有配偶出生率は、年によつての増減はあるものの減少傾向にある。
- ・15歳から49歳までの男女の未婚率に関しては、ともに上昇傾向にある。

○本市においては、15歳から49歳までの女性の有配偶率と男女の未婚率が合計特殊出生率と強い相関を有しており、女性の有配偶率の減少と男女の未婚率の上昇が合計特殊出生率の減少に影響を及ぼしているといえる。また、有配偶出生率も減少傾向にあり、これは、近年の女性の社会進出に伴う労働環境や家庭内環境の変化が原因と推測される。

【表】出生に係る主な指標の推移

	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	相関係数
合計特殊出生率	1.93	1.87	1.75	1.69	1.62	1.45	1.48	1.48	
有配偶率	66.2%	63.0%	60.9%	58.9%	57.1%	53.6%	51.6%	49.7%	0.969
有配偶出生率（推計）	77.6	78.2	75.1	72.3	81.6	74.7	82.6	67.5	0.172
未婚率（女）	30.3%	32.8%	35.1%	36.4%	37.7%	40.0%	40.5%	42.5%	-0.974
未婚率（男）	41.3%	44.5%	48.7%	51.7%	54.3%	56.2%	54.8%	55.6%	-0.968

合計特殊出生率：

15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

有配偶率：15歳～49歳までの、女性人口に占める有配偶女性数の割合。

有配偶出生率：15～49歳の有配偶女性1000人当たりの嫡出子数。

※市町村ごとの嫡出子数が公表されていないため、県の値を基に嫡出子数を推計し算出した。

未婚率：15歳～49歳までの、総人口に占める未婚者数の割合。

相関係数：

合計特殊出生率と各指標との相関を示す数値。数値の絶対値が0.7以上あれば、2つのデータの間に強い相関があるといえる。

資料：総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」

